

BPW Newsletter JAPAN

Official Newsletter of National Federation of Business and Professional Women's Clubs of JAPAN



2012.9.1
Vol.106

【特集】

2012年特定非営利活動法人
日本BPW連合会総会
大阪大会

CONTENTS

- 理事長のメッセージ
日本BPW連合会理事長 松原敏美
- NPO法人日本BPW連合会
全国大会・総会 大阪で開催
・「大阪宣言」を採択
・開催挨拶のメッセージ
大阪クラブ会長 河田英子
- ・第3回日本BPW連合会総会
- ・基調講演 要点
- ・感謝状の贈呈
- ・ヤングスピーチコンテスト全国大会
- ・分科会報告
- JWLI(女性指導者育成支援事業)派遣フェロー決定
- 2012年度ブロック研究会、その他の活動報告
- 日本女性会議2012仙台
「きめる、うごく、東北から」
- 国連CSW(女性の地位委員会)
インターン募集
- 会報43号広告掲載一覧

日本BPW連合会ニュースレター

発行人：松原敏美

編集：広報委員会

日本BPW連合会 事務局

〒151-0053 東京都渋谷区代々木

2-21-11 婦選会館 303

TEL. 03-5304-7874

FAX. 03-5304-7876

E-mail: office@bpw-japan.jp

ホームページ:

<http://www.bpw-japan.jp>



「女性の力がビジネスをリードする」

特定非営利活動法人日本BPW連合会理事長 松原 敏美

法人化後3回目の総会が、大阪クラブの河田英子会長はじめ会員の皆様の御尽力で、盛大にかつ有意義に終了できましたこと、先ず感謝申し上げます。

私達の会は、設立が1958年ですから、今年で54年目を迎えます。この間一貫して、女性が活躍しやすい環境を作り女性を応援することが、社会のためになるという信念のもとに、活動を展開してまいりました。

2012年6月22日、「女性の活躍による経済活性化を推進する関係閣僚会議」が首相官邸で開かれ、首相をはじめ、内閣府、文部科学省、経済産業省、厚生労働省、外務省等主要閣僚が集う中、「日本に秘められている潜在力の最たるものは女性、男性の意識改革とポジティブ・アクションを車の両輪として進め、女性の潜在力を活用し、好循環に導いていく。」「2万社以上の企業数を目標に、政府を挙げて企業や団体に直接働きかけを行い、ポジティブ・アクションへの取組や情報開示を促進する。」等が確認され、また企業における「女性の活躍推進の見える化」を実現すべく、状況を総合的に開示するよう積極的な取り組みをすべきであるとの意見も出された、と公表されました。つまり、政府は女性の活躍推進に本格的に力を入れ、経済活性化のために大きく社会を変えようとしていることが分かります。

「見える化」と言えば、当会は、今年からイコール・ペイ・デイ運動に取り組むことにいたしました。男性が1年間働くのと同じ賃金を得るために、女性はどれだけ多く働かなければならないか、を具体的な日で表す試みです。今年は4月16日でした、つまり賃金の格差が、正規雇用の男女ですら、こんなにあるのです。この運動は、格差を目でみえる形にして示すことによって、格差の大きさを実感していただくとともに、それがどこから生じているのかを社会全体で考えてもらうことを目的にしています。政府の意気込みも、この現実から出発して、格差の原因を的確に排除する施策を大胆に打ち出していきたいと考えます。例えば、育児休業は男性より圧倒的に多く女性の方が取得し、そのことが後々の昇進昇給格差につながっていること、両立支援の環境が十分に整っていないこと、そのために、女性は男性ほど責任ある仕事に就きたがらないこと、女性と男性では昇進格差があること等が、その原因であると言われていました。

さらに、当会は2012年度から始まる3年間の統一テーマを「女性の力がビジネスをリードする——経済に活力を与え、地域を活性化し、世界に活躍の場をひろげよう」とし、BPW インターナショナルと歩調をあわせて活動することを総会で決議しました。女性の力をビジネスの分野に顕在化させるために、女性のエンパワーメント原則(WEPs)を国内にも広める必要があります。

WEPsとは、女性のエンパワーメントに自主的に取り組む企業の行動原則で、これを通して女性の力を企業活動に取り込む新しい企業の姿を示す運動です。国連グローバルコンパクト事務所とUN Womenが提唱している「平等推進は、ビジネスそのもの」というスローガンを具体化する運動でもあります。

このような状況は、女性がその力を100パーセント発揮することを期待される時代の到来を告げています。だからこそ、日本BPW連合会はその大きな流れを推進すると共に、一方でワーク・ライフ・バランス、男性の家事育児参加、保育施設の量と質の確保等、仕事と家庭の両立支援をより一層求める活動を同時に行っていこうと思っています。本年度もよろしくお願い致します。

2012年 NPO 法人日本 BPW 連合会大会・総会

2012年6月9日～10日、大阪市内、ホテル阪急インターナショナルで開催された。
参加者は、210名(会員92名、非会員102名、台湾BPW16名)

男女共同参画社会の実現に向けて、大阪宣言を採択

2012年 特定非営利活動法人日本 BPW 連合会 大阪宣言

日本BPW連合会は、2012年6月10日の大阪大会において、「女性がリードする日本の創造的再生」をスローガンに議論の上、3つのテーマについて次の提言を採択する。

【Ⅰ 女性の視点に立った税と社会保障の一体改革】

1. 社会保障制度を将来世代に受け継ぐために、政府に対し第3号被保険者の制度を含め、国民に正確な情報を提供することを求める。
2. 第3号被保険者の制度は、社会保障の原則である受給者負担の観点から極めて不公平な制度であるため、適切な猶予期間と措置を講じた上で廃止することを求める。
3. 配偶者控除の制度は、女性の多様な働き方を阻害し女性に対する所得制限の面があるので、見直すことを求める。

【Ⅱ 賃金格差への挑戦 ～イコール・ペイ・デイの実施～】

1. イコール・ペイ・デイ運動は、男女の賃金格差を可視化する有効な運動であるので、政府に対し情報提供及びさまざまな支援等を行うことを求める。
2. 男女の賃金格差を生む原因のうち、勤続年数・職階によるものが大きいことにかんがみ以下の3つの施策を一層充実することを求める。
 - ①両立支援
 - ②ワーク・ライフ・バランス
 - ③あらゆる形態のポジティブ・アクションの推進

【Ⅲ 女性がリードする復興・防災】

1. 「女たちの、女たちによる仕事づくり」をテーマに女性たちの経済活動支援を続ける中で、特に女性にも使い易い小規模事業活動への公的支援が有効であるにかかわらず、不足していることが分った。政府に対し、雇用面で弱者である女性への実効性のある優遇策の策定を求める。
2. 復旧・復興の計画実施に際し、コミュニティを支えている女性たちの活動を評価し、女性の提案、活動を特に重視することを求める。
3. 今後の防災に備え、きめの細かい防災計画を立てるために、防災・復興に関する委員会などに女性を50%入れることを求める。
4. 災害時の復興・防災における女性の役割や、その評価を社会に定着させるため、女性の活動の好事例を広報することを求める。

今年のスローガン「女性がリードする日本の創造的再生」を掲げて設定された3つの分科会での議論による提言をもとに作成した「大阪宣言」を採択。この「大阪宣言」は6月22日、松原敏美理事長より、男女共同参画局長岡島敦子氏に手渡された。

開催挨拶 BPW 大阪クラブ会長 河田英子

25年ぶりに大阪で全国大会を開催致しましたところ、全国から166名もご参集下さいました。また、思いがけないご来賓として台湾から元副総統で現在台湾 BPW 会長の呂秀蓮（アネッサ・ルー）女史が、台北クラブ等のメンバー12名と4名のシークレットサービス、そして総領事館高官を率いてご参加下さいました。国際交流の大会となり、海を越えての友誼に感動致しました。

ルー女史のスピーチも素晴らしかったです。今年12月に台湾で開催されますBPWアジア地域会議に日本から多くのBPW会員が参加されますようにと熱いメッセージでした。私はメキシココンGRESSで彼女と出会い、深く感銘を受けた思い出があり、今回の来日に深いご縁を感じました。

今回の統一テーマ「女性がリードする日本の創造的再生」を受けての基調講演は京都大学名誉教授河田恵昭氏による『災害と復興を語る』は2時間すべてが重厚な内容でした。基調講演にはなんと210名の聴衆が参加し、教授の復興構想委員として又現在中央防災会議座長として日本の防災復興の最先端で牽引役を担っておられる方の言葉を聞き逃すまいという真剣な静まり返った時間でした。

女性の意見・視点を取り入れるべきと私達を励まして下さる話題もあり素晴らしい基調講演でした。

台湾の方々には次の日に神戸の「人と未来防災センター」に行かれるとのことで、河田教授がセンター長なのを知っておられて今日は素晴らしいお話が聴けて嬉しかったと笑顔で言っていました。エネルギー的な話術に引き込まれ講演会は会場が1つに融解したようでした。

その後は、ヤングスピーチコンテストで全国から素晴らしいヤングが5名参加下さり、いずれの方も思い溢れる素晴らしいスピーチを披露して下さいました。

交流・懇親会には、ご多用な中を小川大阪府副知事をはじめ、大阪府男女参画府民協働課の藤井課



台湾元副総統・台湾 BPW 会長呂秀蓮（アネッサ・ルー）女史

長・西上推進総括主査、大阪市男女共同参画課山脇課長がご来賓としておいで下さり、心温まるご祝辞をいただき大会に花を添えて下さいました。心から感謝申し上げます。



振り返りますと1年前にお引き受けして、大阪クラブ会員全員で心を合わせ準備をすすめてまいりましたが、今大会がこのように盛大に有意義に開催されましたことは大きなよこびでございます。

ご指導下さった連合会役員の皆様や遠方にも関わらずお忙しい中をお出まし下さった参加者の皆様に深く感謝申し上げます。心に残る素晴らしい大会でした。有り難うございました。



2012 年度特定非営利活動法人日本 BPW 連合会総会

議長(大阪)加藤佳津子 副議長(大阪)吹田アサ子
書記(大阪)藤井揚子・田中多津子

会員数 400 名 委任状を含む出席者数 345 名

《総会議題》

第1号議案 議事録署名人の選出

議事録署名人を議長加藤佳津子、理事長松原敏美、理事河田英子を全員一致で選出。

第2号議案 議題の承認

全員一致で承認。

第3号議案 2012 年度事業報告

第4号議案 2012 年度会計報告

第5号議案 2012 年度監査報告

3~5号議案、質疑応答の後、全員一致で承認

第6号議案 2012 年度統一テーマ・活動方針(案)

第7号議案 2012 年度事業計画(案)

上記2議案を一括して全員一致で可決。

第8号議案 2012 年度予算(案)

表決の結果全員一致で可決した。

第9号議案 理事の承認

福岡クラブ会長交代に伴う、岩城和代さんの理事就任を全員一致で承認。



基調講演

東日本大震災直撃の日本

『災害と復興を語る』

講師：河田 恵昭氏

京大名誉教授、関西大学社会安全学部長・教授
阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター長

※パワーポイントより抜粋

巨大震災が起これば、我が国が今、抱えている社会的矛盾が一挙に露呈する。

- ・政府・自治体の災害対応業務の男社会中心の視点
- ・とくに避難所運営、仮設住宅の建設、生活再建過程における、**極端な男性の視点からの復旧**
- ・**災害弱者**（女性、子ども、ハンディキャップのある高齢者など）の死亡率は健常男性の約2倍。
- ・女性失業者の就労支援における極端な機会の減少
- ・復興まちづくりが箱もの中心となり、住みやすさ生活のしやすさなどの**社会弱者・女性の視点**が欠如

多重防御の考え方

・津波を第1線で防護する海岸堤防や防災緑地の整備とあわせて、陸地側の道路や鉄道の高盛土構造等に多重的に防護する。

東日本大震災復興構想会議では、新しいまちづくりは小学校を中心として進め、高等学校は鉄道駅に近接した場所に建設するという基本方針を確認した。しかし、復興まちづくりでは、住民は大人の視点から、自分たちが働き、生活するまちを再建する方針を主張している。

わが国の社会の悪弊

伝統的に“社会を抜本的に変えること”を拒否する風潮がある。ただし、抜本的に変わった2例がある。

- ①江戸末期から明治維新 巨大災害、外圧、内圧
- ②第二次世界大戦における敗戦

しかし、これらにはいずれも外部要因が存在した。

減災(安全・安心)の目的

- ・被害を出さない、被害をできるだけ少なくする
(*Resistant society*)
—被害抑止：ハードな対策
—被害軽減：ソフトな対策
- ・効果的な災害対応を行って、被害の拡大を抑え、被災した社会を早く安定させる
(*Resilient society*)
—ハイテクとローテクの組み合わせ
—被害拡大要因を意識した対応

社会の減災力を高める

- ・災害に対する抵抗力を高める
—起こらないようにする(高齢者の病気をならないようにする)
- ・災害に対する回復力を高める
—起こることを前提にする(子どもはよく病気をすることが治る)
- ・これら両者を組み合わせることが理想
(**総合減災システムと呼ぶ**)



減災戦略

・「災害は起きる」ことを前提に、被害が起きないようにする、もしくは被害を最小限に抑える

---過去に起こった災害から学ぶ

・防災・減災戦略を継続的なもの

するには、

- 災害の教訓を他の地域や次の世代の人に**伝える**
(語り継ぐことの大切さ)
- 中小規模の災害の教訓を**学ぶ**
- 将来を予測して、**鍛える**

減災の主役は誰か

- ・従来はエンジニアと考えられていたが、阪神・淡路大震災以降「市民」であることがわかった
- ・米国では専門家であると考えられていたが、WTC同時多発テロ以降、「市民」であることがわかった
— **エンジニアや専門家の役割りは、復旧・復興の向けた市民の活動を支え、支援すること**

被災体験の4つのレベル

- ・命を落とす
- ・家・財産、自分にとって大事なものを失う
- ・毎日の生活に支障が出る
- ・心の平静さを失う(たとえば、阪神・淡路大震災では2,000万人が、東日本大震災では3,000万人が恐怖心を抱いた)

ところがこれらの大震災では、命を落とした人と住宅が流失・全壊・半壊した人を「被災者」と見なした

東日本大震災がわが国で起こる最大規模の災害ではない！国難が起こる危険性が大きい。

首都直下地震(M7.3, 30年以内の発生確率：70%、震度7、被災地人口(震度6弱以上)：約2,200万人、想定死者数：約2.2万人、被害額：150~200兆円、

首都機能の喪失を伴う**スーパー都市災害**

南海トラフ巨大地震(東海・東南海・南海地震)

(M9.0, 30年以内の発生確率：88,70および60%、3連動の可能性、震度7、被災地人口(震度6弱以上)：約4,700万人、想定死者数(週日の午後2時46分)：約13万人、被害額：100~150兆円、災害救助法が約700市町村に発令される**スーパ一広域被害**

「国難」となる日本衰退のシナリオ

江戸末期(幕府解体)⇒日本衰退(平成1X年)

警句：大きな危機は、必ず周辺部から中心に向けて裂け目を切り開いていく

首都直下地震を阻止する減災研究

あまりにも複雑な首都機能 [ひと、もの、情報、金]、というロジスティックスの過度の集中

震度6弱以上の地域の人口：2,200万人

都市震災では0.1%が死亡という統計的な結果を適

用すれば、推定死者は 2.2 万人の数倍から数分の 1 となる。したがって、隠れた被災シナリオがある。

首都圏が忘れてはならない事実

南海トラフ巨大地震が起これば、首都圏は震度 5 強から 6 弱の揺れに直撃される。

東日本大震災よりも、長周期地震動や短周期地震動が卓越する。したがって、やや長周期の揺れによる直接の被害（超高層ビル、火力発電所などの施設被害）や申告な液状化被害（臨海埋立地）の発生が懸念される。

南海トラフ巨大地震を阻止する減災研究

あまりにも広域であらゆる被災形態が混在 死者が 40 万人に達する危険性

東日本大震災：1.9 万人

真夜中に発生の場合(1/0.3)：6.3 万人

被災地人口比：750 万人：4,700 万人=1:6.3

予想死者数：6.3×6.3=40 万人（真夜中）

東日本大震災と同じ時間帯(14 時 46 分)：12 万人

二度と「想定外」を起こさない

- ・決定論的なモデルの提示をやめる(1 つの数字がひとり歩きする)
- ・外力の特性や被害の出方は確率的である。
- ・外力がある値以上に大きくなると、被害はハザードの関数でなくなる(例：津波の死亡率)。だから、上限そのものは意味がない。

東日本大震災は、わが国の社会が、残念ながらさらに弱体化していく過程で発生した災害である。なぜなら、過疎高齢化社会が加速する環境で、地域コミュニティがまったく機能しなくなっている。これは地方だけの問題ではなく、大都市の問題でもある。

高い死亡率が語ること

- ・石巻市(死者・行方不明：3,777 人)
- ・松原地区：93 人死亡(地区住民 535 人)
- ・屋外での死者 6 人
- ・女性の死者 62 人、男性の死者 31 人
- ・年齢別内訳：
 - 80 歳台 32 人、70 歳台 20 人、60 歳台 16 人
- ・独居老人：26 人
- ・**死亡率：0.58%**

なぜこのように高い死亡率？

- ・これまで、津波被災の歴史がない。
- ・住宅地は松林を伐採して造成した(住民の大半は、ほかの地区からの転居)。
- ・避難所の小学校まで 800m ある。
- ・高齢者は家から離れたがらない。

防災・被災情報の高度化は犠牲者減少の切り札ではない

「芯」が不在の安全・安心教育

- ・防災教育で教えなければならないことは「いのちの尊さ」である。しかし、How to モノになっている。
- ・交通安全教育の形骸化は目を覆うばかりである(死者は 1970 年代の 1/4、しかし負傷後後遺症のある人は約 6 万人で増加中)。交通モラルの低下が顕著(プロドライバーの法規無視)

東日本大震災から何を語り継ぐのか

- ・災害現場で得られた教訓
- ・災害対応で得られた教訓
- ・自然災害の発生の特徴
- ・危機管理の手法
- ・将来の予測 など

もっと伝えなければならないことは

「いのちの尊さ」であり、「生きることの大切さ」

わが国のような男中心社会では 安全・安心社会を実現できるのか

- ・安全・安心社会の「自助」とは、“直接的”に家族を最優先で守るということが基本である。
- ・安全・安心社会の「公助」とは、“行政的”に住民を最優先で守るということである。
- ・男中心社会は“間接的”に家族を守っていると主張する。
- ・“間接的”に守るということは、災害の被害先行をいつも許すことに繋がることに気づいていない。
- ・したがって、たとえば原子力発電所の再稼働問題でも、男社会では最優先は“安全”とはならない。
- ・当然のごとく、判断における科学的根拠はゼロに近い。
- ・大阪で進む「政変」は、男の判断を優先した危険社会への回帰以外の何ものでもない。

**人々が「無事だ、安心だ」と
言っているその時に、突然、
破滅が起こるのです。**

パウロのテサロニケの伝説

河田恵昭氏に感謝状を贈呈

長年に亘る日本のみならず世界における防災への貢献に加えて、女性の視点を盛り込んだ防災計画の実施、行政機関の指導、また、防災研究における女性研修者の育成など、河田氏のご活躍は、「女たちの女たちによる復興支援」を進める私たちの大きな励みとなっています。



第9回ヤング・スピーチ・コンテスト

9回目となった今年も、全国の5つのブロックから選出された、様々な分野で仕事を持つ5人の女性が素晴らしいスピーチを披露しました。

最優秀賞 高瀬 舞さん (中部ブロック代表)

理事長賞 鹿山ゆかりさん (関東・山梨ブロック代表)

ヤングBPW賞

田中裕美子さん (北海道・東北ブロック代表)

松本 真紀子さん (近畿ブロック代表)

廖 明智さん (西日本ブロック代表)

審査員

各クラブ代表・松原敏美理事長

名取はにわ副理事長 (講評)



ん、大きな被害を免れた家にも何世帯もの家族が避難しておられました。そこで私たちは健康相談などを行いました。70代の姉妹が避難しているお宅に健康相談で伺った時のことです。お宅に上がらせてもらおうと、その姉妹はニコニコと明るく対応してくださいました。私は、ゆっくり話を聞くために、お姉さんと2人だけになり、血圧を計りながら「調子はどうですか？」と尋ねると「一緒に住んでいた息子の行方がまだわからないの」と、これまでとは違った暗い口調になりました。「息子と家にいる時に津波に合い、自分は必死で流れてきた木につかまり生き延びたのだ」と、震災当日のことを、涙を流しながら話されました。そして、「妹は家族が無事なので自分に気を遣って震災の事には触れないの。その優しさがよくわかるから、本当は妹と震災の事を話したいけど、なかなかできないの」と打ち明けられました。私は、「そうだったんですね」と一緒に涙を流しながら、ただただうなづくことしかできませんでした。すると、「血の繋がった姉妹でも話せないことがあるから、保健師さんに来てもらって震災の事やつらい気持ちを聞いてもらえると心が楽になる」と言ってくださいました。

来週には仮設住宅に移る予定だけど、馴染みのない土地で始まる新しい生活が心配だと相談されました。仮設に移っても、必ず保健師が訪問するので、相談して下さいと、「つなぐ」事を約束すると、また涙を流しながら喜んでおられました。

大きな被害を受けた被災地で、保健師として、なにができるのだろうか、私は、とても不安な気持ちでした。

しかし、お姉さんが、心を開き、気持ちを打ち明けてくださったことで、「相手を見て、話をじっくり聞く」そして、「必要な人や場所につなぐ」という、私たち保健師が普段から行っている保健活動が、どんな時でも、どんな所へ行っても役立つのだと確信し、自信につながりました。

これからも、住み慣れた地で、みんなが元気でいきいきと暮らせる街づくりをめざし、保健師という仕事に誇りを持って働き続けたいです。

ご清聴ありがとうございました。



廖明智さん 鹿山ゆかりさん 松本真紀子さん 田中裕美子さん 高瀬舞さん

最優秀賞受賞 高瀬 舞さんのスピーチ

仕事と私 ～健康な街づくり活動への支援、
健康づくりへの支援～

小さい頃から人と関わることが好きだった私は、看護師である母の影響もあって、「健康」を通して地域の人と関われる「保健師」という仕事に憧れるようになりました。高校卒業後、地元の飛騨高山を離れ、看護師・保健師の学校に通い、今、その夢を叶えて保健師として働いています。

保健師の仕事は「みる・きく・つなぐ」と言われていますが、私も、地域の皆さんをみて、話を聞き、その中で健康の問題をとらえ、解決するために必要な人や場所へつなぐ活動をしています。

そんな保健師の活動のひとつに、災害地での保健活動があります。昨年の東日本大震災においても、私たち岐阜市の保健師は、岩手県の陸前高田市に派遣されました。

私には、1歳と4歳の子供がいます。現地で活動するには、1週間家を離れることになるため、子供達に大きな地震や津波があった事、そこで私の仕事が必要になっている事を説明しました。すると、4歳の息子は「僕はパパとお留守番しているから、ママは波のところに行ってあげて」と声をかけてくれました。そして、夫と夫の母の頼もしいバックアップのおかげで活動することができました。

テレビ報道等でご存じかとは思いますが、陸前高田市は、市全体が津波で大きな被害を受けており、私が派遣された震災後2ヶ月経った時でも、まだ80箇所近くの避難所がありました。公民館はもちろん

分科会報告

第1分科会

女性の視点に立った
税と社会保障の一体化への提言

コーディネーター：松原敏美（連合会理事長）
提案者：藤田ひろみ（福岡クラブ）
中野由美子（福岡クラブ）
参加人数 35 名（非会員 0 名）

目的

今まさに
国会で
社会保障・
税の一体
改革が審



議されているが、BPWでも女性の視点に立った「あるべき社会保障・税」について考えたい。日本、そして世界の経済が疲弊する中、女性の労働力なくしては日本の経済を支えることはできなくなっている。私たちは、次世代のためにも、女性の視点に立って社会保障と税の問題について検討し、問題点と解決策、今後の方向性について政府に提言する。

討議内容

- ・第3号被保険者の保険料は夫が払っていると思っていた。
- ・配偶者控除の仕組みがわかっていなかったが、103万円というのが大騒ぎするほどの問題ではなかった。
- ・第3号被保険者の制度については、正しい情報を国民にしらせるべきである。
- ・「パート労働者に社会保険を適用するとなると経済界から反発が多いのではないか」との質問。⇒重なる部分は多いけれど、パートタイム労働者の社会保険適用枠の拡大と第3号被保険者の問題は別問題。社会保険料の負担を避ける姿勢は国際社会では通用しないし、労働者に対して社会保険を負担するのは会社の常識ととらえなければ今後の人材のグローバル化に耐えられない。しかし、日本企業の実態に鑑み、例えば数年の猶予を与える、一致期間または小規模事業者には社会保険料負担の補助を行う、などの措置をとればどうか。結果、新たな雇用や女性の活躍による付加価値や利益が生み出される可能性もある。
- ・現在配偶者控除や第3号被保険者の恩恵を受けている世帯に対する手当はどうするのか。
- ・第3号被保険者適用者だけを責めるのではなく、現状をわかるように説明し、歩み寄りというものの考え方が大切だと思う。
- ・性的役割分担の意識が変わらない限り、女性は家

事を中心であり、働くとしても短時間でという姿勢は変わらない。

提言

1. 社会保障制度を将来世代に受け継ぐために、第3号被保険者の制度を含め、国民に正確な情報を提供すること。
2. 第3号被保険者の制度は、社会保障の原則である受給者負担の観点からきわめて不公平な制度であるため、適切な猶予期間と措置を講じた上で廃止すること。
3. 配偶者控除は、女性の多様な働き方を阻害し、女性に対する所得制限の面がある。このような制度は見直すこと。

第2分科会

賃金格差への挑戦
～イコール・ペイ・デイの実施～

コーディネーター：深沢公子（山梨クラブ）
助言者：名取はにわ（東京クラブ）
提案者：櫻井啓子（東京クラブ）
参加人数：53名（非会員6名・台湾BPW）

目的

イコール・ペイ・デイ（EPD）運動について、2012年4月16日に有志クラブで運動を実施し、多大な成果を上げた。来年度は各クラブで実施し、全国的な運動にしたい。イコール・ペイ・デイ（EPD）にどんなことをすればよいか、EPD運動について議論。

討議内容

- ・今年EPDを実施した東京、山梨、京都、大阪和歌山、北九州クラブから活動報告。
- ・少子高齢社会において女性の活躍が不可欠であり、今回の運動を来年も実施すると男性企業家から言われた。（東京クラブ）
- ・札幌、苫小牧、名古屋、香川、長崎クラブは、来年の実施を検討する。
- ・EPDの連絡が遅い。（長崎クラブ）
- ・「イコール・ペイ・デイ」という言葉を初めて聞いた（6人）
- ・男女間にこんなに大きな賃金格差があるとは知らなかった。
- ・EPD運動についてわかりやすい説明キットがあればよい。
- ・女性が働き続けるためには、保育所も必要だが、介護問題もある。



- ・女性の賃金は、定額年金に繁栄し、さらには女性高齢者の貧困へとつながる。
- ・必死に働いて起業し、今は女性を含めて多くの従業員を抱えているが、男女の賃金格差はあまりない。(台湾 BPW 会員。台湾では EPD の計算はしていない)
- ・男女格差を縮小するため、ワーク・ライフ・バランスの推進、両立支援策の充実、ポジティブ・アクションを実施すべき。

提言 1. イコール・ペイ・デイ運動は、男女の賃金格差を可視化する有効な運動であり、さまざまな政府の支援を期待する。

2. 男女の賃金格差の原因のうち、勤続年数と職階によるものが大きいことに鑑み、以下の3つを一層充実するように求める。①両立支援②ワーク・ライフ・バランス③あらゆる形態のポジティブ・アクションの推進

- 言うことには限界があり、地域で助け合う組織作りが必要。その結果、自分は安心して他の役割が担える。
- ・被災者は、自分の資産を含めて相談事が多い。司法書士など専門的な知識による対応も必要。自分の出来ることで役立てればよい。
- ・旅行社の仕事をしているが、震災以降、海外旅行をやめ東北に行くようにしている。東北支援ツアー等、同業者間で出来ることを考えるのもよい。
- ・近所のリーダー、みんなで常に集まれる所を決めておき、いざという時に集団で避難できる態勢を都ておくようにしたい。
- ・BPW が全国組織として、被災地の生の声をタイムリーにネットを通じて全国に配信して欲しかった。



<まとめ>

- ・今回の震災を通して、女性は被災者としてのジェンダーではなく、被災者支援者及び地域復興の担い手としての役割を持つジェンダーであることが明確になった。
- ・課題となったことは、医療へのアクセス、こころのケア、主として避難所などでのプライバシーの保護や暴力からの保護、今後に向けての収入の確保、ネットワークづくりなど多方面にわたる。
- ・現場の担い手として女性の意見を施策に反映するために、女性団体の役割を評価し、委員任命の基準の一つにする必要がある。

提言 1. 経済活動への支援(女たちによる仕事づくり)を通して、特に女性が利用しやすい、小規模事業への比較的手続きが簡単な支援が必要であること、及び、女性の雇用拡大に向けて実効性のある優遇策の必要が浮き彫りになったことから、上記の施策をとるように政府に要望すること。2. 復旧・復興計画の策定に当たって、コミュニティを支える女性たちの活動を評価し、女性の提案・発言を反映させること。3. 今後の災害にそなえ、きめ細かな防災計画を立てるために、関係する委員会などに女性を50%入れること。4. 災害時の女性の役割や評価を、社会に定着させるために女性の復興・防災活動の好事例を広報すること。

第3分科会	女性がリードする復興・支援
	コーディネーター：棚田美津子（山形クラブ）
	助言者：平松昌子（東京クラブ）
	報告者：柳下真知子（東京クラブ）
	参加人数：50名（非会員 不明）

目的 震災から1年を経て、災害時の様々な問題を、女性の安全という視点から改めて考えたい。物資供給、医療へのアクセス、こころのケア、ストレスの緩和、プライバシーの保護、防犯(DVを含む)のあり方、被害からの救済、コミュニティの温存或いは形成などを考える。ここでの議論が、着実な復興の助けとなり将来のまちづくりや防災にも繋がることを期待する。

- 討議内容**
- ・女性と高齢者の避難について日常から話し合っ置く必要がある。避難をいやがる高齢者の親を残して自分だけ避難は出来ない。
 - ・子どもと高齢者がダメになってしまったら・・・という気持ちが、女性の被害拡大につながった。この対応については、高齢者への説明やPTAでも話し合う必要がある。
 - ・一人暮らしの人への声かけやマンションなどでの組織作りも必要であり、呼びかけには応じることにした。
 - ・災害対策見直しの委員会に参加しているが、肩書きの指定などが女性の委員資格に足かせとなっている。女性団体は、資格を備えていると主張していくべき。
 - ・地域ネットワークづくりが必要。自分が親や子に

JWLI フェローシップ 2012 年度研修生決定

BPW が、日本側のパートナーを務めるボストンでのリーダーシップ研修、2012 年度 JWLI フェロー4 名が決定しました。(応募者 10 名)

本年度は、フォーラムの成功の後という事もあり、来日のフィッシュ厚子氏もパトリシア・デイトン氏も研修生の方への期待が大きく、特に、下記のように重点をおいて選考されました。

- ① 社会に対してどのような貢献のアクションを考えているか
- ② 外国の課題のある途上国のサポートでなく、日本国内でのアクションをとれる人
- ③ 社会での仕事の経験が既に充分あり、自分のネットワークを持ち、帰国後のアクションが可能な人
- ④ 経済的に自立し、社会に対する貢献の準備がある人
- ⑤ 英語力 (必須)

◆ 高橋野枝さん 東京都杉並区

NTT ドコモに勤務すると同時に、非常に幅広い社会活動に参加している。赤十字語学奉仕団、内閣府 NPO マネージメントフォーラム運営、YMCA 国際語学ボランティア、内閣府、文科省主催の海外研修にも多く参加の経験を持つ若いネットワークの力が素晴らしい、女性リーダーです。

◆ 榊原清乃さん 名古屋千種区

長年、優秀なビジネスウーマンとして、コンサルティング、マーケティング等の重要なポジションを務め、出産後、日本 IBM を退社。現在は、育児支援団体ママスタートクラブ主宰として、活躍する。BPW 名古屋クラブの新人。4 歳になるお子様を、家族に預け、将来の活動のためにチャレンジです。

◆ 文本志麻さん 東京都東村山市

長年のビジネス経験の後、将来の社会貢献の仕事を目指し、大学院で臨床心理学を学び、今年春から病院の研究チームとして、スタート。特にハンディのある子どもたちに対してのプロフェッショナルな支援を目指しています。

◆ 谷岡理香さん 東京都港区

長年フリーアナウンサーとして自ら活躍すると同時に、後輩を育てる会社を設立し、また、大学でもコミュニケーションを教える。メディア界のネットワークを通して、新たに社会の課題に取り組んでいます。(東海大学文学部広報メディア学科准教授)

JWLI について、以下のサイトをご覧ください

<http://www.bpw-japan.jp/japanese/jwli.html>

日本 BPW 連合会 JWLI ウェブサイト

<http://www.simmons.edu/centers/jwli/fellows-program.php>

シモンズ大学院 JWLI ウェブサイト

※4 名の方について、ボストンシモンズ大学院で用意された内容を英語で紹介いたします。

◆ **Noelle Takahashi** holds an M.A. in Intercultural Communications Studies from Rikkyo (St. Paul's) University. In addition to her professional experience, she has volunteered and worked with various non-profit organizations. Her passion is social work, particularly in the areas of leadership, NPOs and fundraising. The Red Cross sent her to the Micronesian Islands, Malaysia, Switzerland, New Zealand, and Germany to visit NPOs and examine the status of women, girls and disadvantaged youths. Since the March 2011 disaster, she has been a member of the Japanese Red Cross Language Service Volunteers, serving as part of a team of interpreters for foreigners living in disaster areas and foreign NPO personnel. In Japan, she has facilitated the *NPO Management Forum* hosted by the Cabinet Office. Her goals after the JWLI Fellows Program are to apply what she learns to working with the Tokyo Junior Chamber (TJC) and to organize workshops to nurture young leaders in Japan.

◆ **Kiyono Sakakibara** earned an MBA at the University of Texas, Austin. She has worked for IBM Japan and various other companies, including Pavilion Technologies and Cititrust and Banking Corporation. In 2009, she became founder and president of Momstart Club, a child support non-profit organization for moms and babies that currently serves 5,000 women per year. Their mission is to help families have fun with and enjoy their children, to bring people together to make local communities more lively and friendly, and to make it unnecessary for any mom to feel lonely or isolated.

◆ **Shima Fumimoto** has a B.A. in English from Old Dominion University and a Masters in Clinical Psychology from Mejiro University Graduate School. She is currently a psychotherapist at the National Center of Neurology and Psychiatry in Tokyo. Through the JWLI Fellows Program, she hopes to acquire management knowledge and skills, especially in fundraising and networking. Her vision is to assist private organizations to take a stable and stronger role in the community to conduct sought-after supporting programs effectively.

◆ **Rika Tanioka** earned an M.A. in Women's Studies at Josai International University and has studied in the Doctoral Course at Musashi University. Her impressive career has been focused on radio and television. In 1994 she founded the company "Announcehouse" and has served as president of SJWRT (Society of Japanese Women in Radio and Television). She is currently an Associated Professor in the Department of Literature at Tokai-University. Rika's long-term goals include starting an organization supporting female broadcasters, linking organizations helping with the March 2011 disaster relief, and supporting mothers and children who were affected and displaced by the disaster.

4 名の皆様の公開報告会を予定しています
東京ウィメンズプラザフォーラム参加企画
11 月 10 日(土) 14:00~

**2012年日本BPW連合会 ブロック研究会
ヤング・スピーチ・コンテスト&講演会**

北海道・東北ブロック研究会 <担当：旭川クラブ>

若い世代の発進から活力ある未来へ
～女性の力が地域を活性化する～

【日時】 2012年9月8日(土) 13:00～16:30
【会場】 旭川グランドホテル2F白鳥の間
【プログラム】

- ヤング・スピーチ・コンテスト
テーマ「私と仕事・職業」(各クラブ代表)
 - パネルディスカッション
テーマ「若い世代の発進から活力ある未来へ
～女性の力が地域を活性化する～」
- パネリストが、現在・将来についての意見や希望を語ります
- コーディネーター 鈴木 康弘氏/一般社団法人ウェルビーイングコンソーシアム
- パネリスト 介護職 村岡 のぞみさん
旭川市職員 山中 カナナさん
教育大学旭川校 伊藤 蛍さん
旭川大学 本田 梢さん

関東・山梨ブロック研究会 <担当：山梨クラブ>

**内閣府共催シンポジウム「ポジティブ・アクション」&
ヤング・スピーチ・コンテスト**

【日時】 2012年11月25日(日)13:30～16:00
【会場】 甲府商工会議所(甲府駅南口徒歩15分)
【プログラム】

- ヤング・スピーチ・コンテスト地区大会
 - ◇第1部 基調講演
「ポジティブ・アクションの意義」
辻村みよ子氏/東北大学大学院教授
 - ◇第2部 パネルディスカッション
「女性がトップになったなら」
- パネリスト
平田 美穂氏/中小企業家同友会全国協議会事務局長
羽田 真澄氏/山梨中央銀行東視点支店長
青島みどり氏/山梨県立宝石美術専門学校校長
三上 明輝氏/内閣府男女共同参画局調査課長
アドバイザー
辻村 みよ子氏/東北大学大学院教授
コーディネーター
名取 はにわ/元内閣府男女共同参画局長
日本BPW連合会副理事長

- ◇第3部
16:15～17:15
交流会 講演者・参加者による名刺・情報交換

その他のBPWブロック研究会予告

- 近畿ブロック (担当：京都クラブ)
2012年10月8日(月) 開催地：京都
- 西日本ブロック (担当：BPW香川クラブ)
2012年11月17日(土) 開催地：高松市
- 中部・東海ブロック (担当：BPW名古屋クラブ)
2013年2月2日(土) 開催地：名古屋市

書籍出版！ 2012.10発売予定

日本BPW連合会東日本大震災被害者支援の記録
『3.11女たちが走った
—女性からはじまる復興への道』

**日本女性会議2012仙台
Japan Women's Conference in SENDAI 2012**

「きめる、うごく、東北から」
2012年10月26日(金)・27日(土)・28日(日)
会場：仙台国際センター
<http://joseikaigi2012sendai.jp/>

<主なプログラム>

10月26日(金)

◇特別プログラム 14:30～

「女性たちが語る3.11～これまでと今と」

コーディネーター：宗片恵美子 (NPO法人イコールネット仙台代表)

パネリスト：

- 阿部 憲子 (南三陸ホテル観洋女将)
- 石井布紀子 (NPO法人さくらネット代表理事)
- 伊藤藤子 (仙台市子育てふれあいプラザのびすく仙台館長)
- 丹野 綾子 (河北新報社石巻総局記者)
- 二瓶由美子 (桜の聖母短期大学准教授)

10月27日(土)

◇分科会 (6テーマ) 9:30～

◇記念講演 13:00～

「女性のエンパワメント～ノルウェーからのメッセージ」
講演者：アネット・トレッテバルグステューエン

ノルウェー王国国會議員

◇シンポジウム 14:20～

「きめる、うごく、東北から」

コーディネーター：辻村みよ子 (東北大学大学院法科研究科教授)

コンテナー：アネット・トレッテバルグステューエン

堂本暁子(前千葉県知事、男女共同参画と災害・復興ネットワーク代表)

パネリスト：

- 渥美由喜(東レ経営研究所ダイバーシティ&ワークライフバランス研究部長)
- 石本めぐみ (RQ被災地女性支援センター副代表)
- 日置真世(北海道から地域づくりを創造・発信する場づくり師)



日本BPW連合会は
「日本女性会議2012仙台」
に協賛しています

2013 年国連女性の地位委員会(CSW)へ! CSW インターン募集中

日本 BPW 連合会では、国際問題に関心を持つ大学生または 30 歳以下の女性を対象に、毎年 3 月、ニューヨークの国連本部で開催される、女性の地位委員会 (CSW) に派遣するインターンを募集しています。これは、日本 BPW 連合会が加盟する BPW インターナショナル (BPWI) が、国連の「諮問的地位」を有する団体であることにより、はじめて可能になるもので、2003 年に第 1 回派遣が行われて以来、今回は第 10 回の派遣となります。



2013 年派遣インターン募集要項

募集目的 国際問題・国連問題に関心を持つ、あるいは将来その方面で活躍したいと願う若い女性を支援する目的で行われるもので、国連・CSW での各国代表の発言を傍聴する他、国連本部内及びその周辺で行われる様々な関連行事への参加を通して、若い世代の国際的な感覚・知識の育成を目指しています。尚、現在国連本部ビル改装中のため、国連本部での予定については、変更の可能性があります。

期 間 2013 年の第 57 回国連女性の地位委員会は 3 月前半の 2 週間の予定です。期間中に、BPW-NY 総会が行われますので、参加期間は、女性の地位委員会が始まる前の週の金曜日から BPW-NY 総会までの約 10 日間をご予定いただき、その後、女性の地位委員会の期間の最後まで参加されるかについてはご相談にじます。

第 57 回女性の地位委員会のテーマは、「女性及び女兒に対するあらゆる形態の暴力の撤廃および予防 (仮訳)」

募集対象 国際問題、女性問題、国連に関心を持つ大学生または 30 歳以下の女性、若干名 (3~4 名) 帰国後、報告書を日本 BPW 連合会に提出していただきます。また、ヤング BPW のメンバーとして BPW の活動に参加していただきます。

費 用 航空運賃・宿泊費・生活費は自己負担。但し、登録料及び BPW が行うイベント (夕食会・BPWNY クラブの総会) 等への参加費の一部は BPW で負担します。

応募方法 お問い合わせ及び応募は上記 e-mail にて受付けています。応募必要事項を記載の上、小論文を添付し送信願います。

応募必要事項：氏名・住所・連絡先 e-mail・電話・生年月日・所属 (学部/専攻) 又は職業・履歴 (高校卒業後の学歴/職歴) ・滞在可能期間 (予定)

小論文：応募動機および国際問題・女性問題・国連に関するあなたの意見を日本語および英文で述べて下さい (日本語で 1000 字前後、英文で 500 words 以内)。

メール件名：「UN-CSW インターン応募」と記載のこと。

宛先アドレス：csw2013@bpw-japan.jp
(日本 BPW 連合会 CSW インターン担当)

応募〆切 2012 年 9 月 14 日 (必着)

結果発表 2012 年 9 月 28 日
(E-mail にてお知らせします。)

6 つの特典

1. CSW の会議と平行して行われる様々なイベントやワークショップに参加し、発言し、意見を述べることができます。(一部有料)
2. BPW インターナショナル主催の各種活動 (ワークショップ・交流会・夕食会など) に参加して、各国の BPWI メンバーと交流ができます (有料部分は BPW 一部負担)
3. 国連や CSW に関する説明や解説を事前あるいは現地で受けることができます。
4. 日本政府代表部が行う公式説明会に参加できます。
5. 世界各国の女性団体の方と交流できます。
6. 国際関係・女性問題関係を先行する女子学生には、論文作成などのための最前線の資料が入手できます。

★★その他の詳細・申し込みはこちらから★★

<http://www.bpw-japan.jp/japanese/csw.html>

皆様の地域の大学、女性グループ、若い女性などに募集をお知らせください。

滞在期間は短いながら、参加者からは、論文のデータ収集に役立った、就職に有利に働いた、国際的ネットワークづくりへのきっかけとなったなど好評を得ています。2013 年インターン募集が第 10 回目となります。応募の詳細については、上記ホームページをご覧ください。また、これまでの参加者の声、報告もホームページ上で読むことができます。

<Topic 1>

JWLI フェローシップ事業
(Japan Women's Leadership Initiative)
2012年度研修生報告会は、
東京ウィメンズプラザフォーラム
に参加します。

2012年11月10日(土)14:00~

<Topic 2>

JWLI創設者である
厚子東光フィッシュさんが、
「日本災害復興基金ボストン」
Japan Disaster Relief Fund Boston
(JDRFB) 創設に対し、日本と
アメリカ合衆国との間の相互
理解促進への貢献により、外務
大臣表彰を受賞されました。

JDRFBは厳選なる審査によっ
て、東北の人々および地域に根
差した支援活動を展開する17
のNGO団体とボランティアグル
ープに、総額\$840,000(日本円
換算約67,200,000円)の資金援
助をされました。

日本BPW連合会は今後も復興支
援を続けていきます。皆様のご
協力をお願いいたします。

「女たちの、女たちによる仕事づくり」 復興支援金

■郵便局からのお振込の場合
記号 10080
番号 32423911
口座名 トクヒ)ニホンビーピー
ダブルレンゴウカイ

■銀行からのお振込の場合
ゆうちょ銀行
店名 ○○八(ゼロゼロハチ)
店番 008
普通預金
口座番号 3242391
口座名 トクヒ)ニホンビーピー
ダブルレンゴウカイ

お振込み時の担当者へお願い

・振込み手数料はご負担願います
・クラブ名を明記願います

※通帳に表示されるのは、半角 9 文
字、全角だと 8 文字までのため、
BPW は不要ですが、入れる場合
は、必ず英字でお願いします。

良い例 ◎トウキョウクラブ
◎BPWトウキョウ

悪い例 ×ビーピーダブルトウ→東海?東京?
×ビーピーダブルリュウ→クラブ名不明
×担当者個人名→検索必要

会報 43 号広告掲載一覧表

ご協力ありがとうございました

クラブ	掲載名	枠	金額
札幌	BPW 札幌クラブ	2 枠	30,000
旭川	BPW 旭川クラブ	2 枠	30,000
苫小牧	BPW 苫小牧クラブ	2 枠	30,000
仙台	BPW 仙台クラブ	2 枠	30,000
山形	BPW 山形クラブ	2 枠	30,000
米沢	BPW 米沢クラブ	2 枠	30,000
東京	お好み焼き つばさ	1P	40,000
東京	ブチホワ(久家道子エンプロイタリー)	1 枠	15,000
東京	株式会社サクセスワイズ	1 枠	15,000
東京	中野双葉印刷	2 枠	30,000
山梨	BPW 山梨クラブ	2 枠	30,000
名古屋	BPW 名古屋クラブ	2 枠	30,000
東海	BPW 東海クラブ	1P	40,000
東海	高野医院	1 枠	15,000
アイリス東海	BPW アイリス東海クラブ	2 枠	30,000
岐阜	BPW 岐阜クラブ	2 枠	30,000
京都	BPW 京都クラブ	2 枠	30,000
大阪	BPW 大阪クラブ	2 枠	30,000
和歌山	BPW 和歌山クラブ	1P	40,000
和歌山	JAわかやま	表2	70,000
香川	BPW 香川クラブ	2 枠	30,000
福岡	BPW 福岡クラブ	2 枠	30,000
北九州	BPW 北九州クラブ	2 枠	30,000
長崎	BPW 長崎クラブ	2 枠	30,000
	JWLI 事業	1P	40,000
			785,000

◇◇◇BPW アジア・太平洋地域会議◇◇◇



期間:2012年12月1日~3日
会場:グランドホテル(台北)
担当:BPW 台湾(会長:呂 秀蓮)
みなさん、台湾 Taipei に行きましょう

編集後記

まだまだ慣れない編集作業です。大勢の方にご協力頂いてやっと完成させることができました。ありがとうございました。これからもよろしくお願いたします。(塩崎)

